

「被爆・戦争体験を語り継ぐ」 平和集会

長崎県諫早市老人クラブ連合会

- クラブ数 125クラブ
- 会員数 8541名 (男性3353名、女性5188名)

今年は被爆・戦後70年になりますが、被爆者・戦争体験者は年々減少して、悲惨な体験の風化と若い世代への継承活動が大きな課題になっています。長崎の老人クラブが核の恐ろしさ、平和の尊さを語り継ぐ平和集会を実施することは大きな意義があります。

次世代に伝えることは老人クラブの役割です。

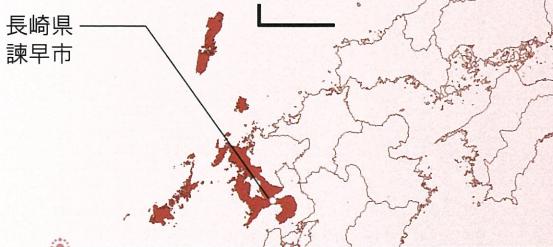
また、今年は諫早市老連結成50周年、1市5町合併10周年になることも取り組む動機になりました。

市老連若手委員会が本年度の事業として行うことを決定し、市老連役員会に提案、了承

されました。市老連三役と若手役員が実施日時、場所、参加人数、体験者・意見発表者・朗読者の選定等必要な事項について協議して決定しました。若手委員会は詳細な役割分担を決め、準備態勢を整えました。当日は関係者全員の協力、一致結束で滞りなく集会を開催できました。若手委員会としても市老連行事の運営に関わった経験が活かされたようです。

次世代に伝える市民の集会

平成27年8月8日(土)午前10時から12時



諫早のんのこ踊りに参加して老人クラブをPR

まで諫早文化会館で、老人クラブ会員や若い世代を含めた一般市民約500人が参加して、盛大に平和集会を開催することが出来ました。目的は①戦争の悲惨さ、核の恐ろしさを語り継ぎ、平和に対する意識向上②非核と平和なまちづくりに貢献③市老連の更なる発展意識共有です。

内容は①原爆ビデオ上映「長崎の記憶」幻の原爆フィルムで歩く長崎②詩朗読「原爆を作る人々に」(福田須磨子作)、手記朗読「人の女子青年団の記録」※朗読は平和活動団体「ピースバトン」が協力③3人の体験者談(ア)諫早市駅で被爆者の救援活動体験(イ)北朝鮮から日本に帰還するまでの体験

(ウ)南方に出征した戦争体験④中学生・大学生の意見発表⑤混声合唱団の歌「長崎の鐘」「故郷」⑥平和都市諫早宣言を全員朗読⑦原爆写真パネル展示でした。

内容は少し多かったのですが、充実していましたという評判でした。

10代から高齢者まで、 参加者の感想

●戦争の悲惨さ、悲しさを分りやすく伝えて

くれた、とても良い集会だと思います(女10代)
●諫早にも多くの被爆者がいることを身近に感じました。諫早宣言の全員朗説は良かった(女20代)
●すばらしい企画だと思います。貴重な話を聞かせていただいた(女40代)
●戦争体験のない世代が多く参加することが必要だと思います。広報をもっと工夫すること(女50代)
●戦争は正義も不正義もない、すべて悪。こういう企画を小集会でもいいから継続してほしい(男60歳以上)
●詩・手記朗読、中学生・大学生の意見発表はすばらしかった。若い人の考え方、未

来が楽しみです(女60歳以上)
●老人クラブでしか出られない企画で、充実した会好評でした。

今後も継続して開催

本事業は初めて実施しましたが、今後も継続して開催を望む参加者の声をいただき、新聞報道を通してクラブのPRもできたので、所期の目的は達成したと思います。今後の継続には運営や内容に検討の余地がありますので、しっかり検討していきたいと考えています。

特に、会員増強運動(「いさはや老人クラブ5・ゴ運動」5年間で5%純増)と連動した取り組みを進める必要があります。内向きの活動だけでなく、最近の高齢者に係わる諸課題にも目を向けて、新地域支援事業への参画等、老人クラブの活性化につなげていきます。(諫早市老連会長 小谷富敏)



会長挨拶で開会



会場内の様子



中学3年生の意見発表

